

(新)短期寿命気候汚染物質削減に関する国際パートナーシップ拠出金関連業務
303百万円（ 0百万円）

地球環境局国際連携課国際地球温暖化対策室
水・大気環境局大気環境課

1. 事業の必要性・概要

ブラックカーボン等の短期寿命気候汚染物質については、その削減が短期的な気候変動の緩和と大気汚染の防止の双方に効果があるとして国際的に注目されている。平成24年2月に米国等のイニシアティブにより国際パートナーシップ CCAC（短期寿命気候汚染物質削減のための気候と大気浄化のコアリション）が立ち上がり、我が国も、平成24年4月に参加を表明したところ。同枠組みに参加する我が国としては、アジアにおけるCCACの取組拡大を先導するとともに、資金拠出や個別具体的なプロジェクト等を通じた貢献が必要不可欠。

2. 事業計画（業務内容）

（1）短期寿命気候汚染物質削減に関する国際パートナーシップ拠出金

CCACの参加国として、相応の貢献を行うことが必要不可欠であるため、当枠組みに対し資金拠出を行う。

（2）短期寿命気候汚染物質削減対策調査

①エネルギー起源発生源からのブラックカーボン等の排出量の把握・検証

各種発生源からのブラックカーボン及び同時に排出される関連物質の排出量を把握するため、発生源調査を行う。また、国としての全排出量を把握するための推計方法論を検討し、排出量を推計・検証する。

②ブラックカーボン等の排出削減対策調査

各種発生源において適用されている排出削減対策技術及び関連法制度について情報を収集し、エネルギー起源CO₂対策との共通対策を特定し、その効果を把握する。

③アジア地域における排出実態把握・対策措置検討調査

アジア地域の途上国を対象とした排出実態把握に向けた支援調査及び国際機関等が既に実施しているブラックカーボン対策について情報収集・課題整理を行い、効果的な事業や政策手法を検討する。

④日本の貢献の海外への発信

CCAC事務局やCCAC参加国等に対して発信するための情報整理を行う。

3. 施策の効果

CCACへの拠出金の有効な活用の管理・監督を行うとともに、アジア地域などの途上国における短期寿命気候汚染物質及びエネルギー起源CO₂の一体的削減に寄与し、気候変動の緩和及び大気汚染の防止に貢献する。

短期寿命気候汚染物質削減に関する国際パートナーシップ拠出金関連業務

背景

- 近年、短期的な気候変動防止と大気汚染防止の双方の観点から、ブラックカーボン等の短期寿命気候汚染物質の削減が国際的に注目。平成24年2月には国際パートナーシップ「短期寿命気候汚染物質削減のための気候と大気浄化のコアリション」(CCAC)が設立され、日本も同年4月に参加(なお、同年5月のG8サミット(米国・キャンプデービッド)においてG8各国はCCACに参加することを確認。)。26カ国・機関が参加。
- ブラックカーボンは、エネルギー起源の非効率・不完全な燃焼によって発生する物質であり、エネルギー起源CO₂対策と密接な関係。さらに、呼吸器系等に悪影響を及ぼす微小粒子状物質の主要構成要素の1つ。
- CCAC参加国として、資金拠出や個別プロジェクト等を通じ、相応の貢献が求められる。しかし、ブラックカーボン単体としての国内排出量や対策技術についての知見は十分集積されていない。

必要性・目的

CCACへの拠出金の有効活用の管理・監督及びアジア地域に対する事業の展開を図る上で、

- 国内の排出実態及び対策技術等に関する情報整備
- エネルギー起源CO₂対策との共通対策についての評価
- アジア地域における排出実態調査
が急務

